アジア原子力協力フォーラム（FNCA）
第 26 回コーディネーター会合（CDM）の結果概要について

令　和　８　年　５　月 26 日
内閣府原子力政策担当室

１．開催日時：令和8年2月6日（金）10:00～17:30

２．開催場所：三田共用会議所 大会議室（ハイブリッド形式）

３．主　　催：内閣府原子力委員会
　　共　　催：文部科学省

４．参加国及び機関：オーストラリア※、バングラデシュ、インドネシア、日本、カザフスタン※、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、IAEA/RCA（オブサーバー）※（※：オンライン参加）
（参加者一覧：添付2参照）

５．議　　長：玉田　正男　FNCA日本コーディネーター

６．我が国の主な出席者　：

上坂　充　　原子力委員会 委員長
直井　洋介　原子力委員会 委員
吉橋　幸子　原子力委員会 委員
恒藤　晃　　内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 審議官
玉田　正男　FNCA日本コーディネーター
和田　智明　FNCA日本アドバイザー
森本　浩一　FNCA日本アドバイザー

７．議事次第：添付１参照

８．議事概要：

（1）セッション1：開会

冒頭、前回のコーディネーター会合以降、新たに着任した各国コーディネーターが紹介された。玉田議長による開会挨拶の後、原子力委員会上坂委員長が歓迎挨拶を述べた。参加者の自己紹介の後、本会合のアジェンダ案が了承された。

（2）セッション2：第26回大臣級会合（MLM）の報告

事務局が、令和7年11月27日に開催された第26回大臣級会合の結果を報告した。上坂原子力委員会委員長による議長のもと、小野田大臣の歓迎挨拶から始

まり、OECD/NEA 事務局長等による基調講演、各国代表者からの国別報告、「原子力エネルギーの役割」をテーマとした円卓会議、FNCA賞受賞チームの表彰等が行われ、最後に共同コミュニケが取りまとめられたこと等が報告された。

（3）セッション3～5：既存プロジェクトの活動報告と評価

2026 年も活動が継続する 8 つのプロジェクトについて、リード国の PL が、2025 年度の活動状況と成果ならびにその自己評価、今後の活動計画等の報告に基づき活動の評価が行われた。

① **放射線育種プロジェクト**（長谷 PL）

放射線育種の基本原理に触れた後、プロジェクトの目的として、アジア地域の主要作物である稲等に放射線突然変異育種を行うことで、病気、害虫、干ばつなどに強い品種や、高収量・高品質な品種の開発を目指して長年活動を続けているとし、現在のフェーズにおいては、持続可能な農業を目指した主要作物の突然変異育種にリモートセンシングやゲノムシーケンシングなどの新技術を適用することで効率化を図り、アジア各国での新品種開発を加速することを目標としているとの説明があった。

2025 年度の成果として、10 月にインドネシアでワークショップを開催し新技術の適応に向けた取組強化の為、資金獲得への活動強化策を討議した旨や、QST のイオン照射研究施設を利用する研究協力に関連し、インドネシアの BRIN 等と覚書（MOU）締結したことが報告された。更に、日本、インドネシア、タイによる国際チームが競争的資金（e-ASIA 共同研究プログラム「リモートセンシングと解釈可能な AI による気候変動下での食料安全保障の確保に向けたイネ突然変異育種の高速化」、2025～2027 年度）を獲得し、研究を開始したことが目標達成の実績の例として紹介された。

今後の活動計画として、各国が、資金獲得の機会を模索しつつ、新技術の利用を通じて研究を加速すること、また、有望な変異系統の栽培試験を行い、優れた系統を新品種としてリリースすること、などが述べられた。

質疑応答では、競争的資金の獲得経緯や新技術の適応に向けた予算獲得の見通し等について参加者を交え積極的な意見交換がなされた。

② **放射線加工・高分子改質プロジェクト**（岡崎 PL） ＊オンライン出席

本プロジェクトは、放射線加工技術により、農業、環境、医療分野で実用性のある新商品を開発することにより持続可能な目標を達成することを目標として、

農業用バイオスティミュラント、環境修復、医療、生物学的分野での研究に注力しているとの説明があった。

2025年度の成果として、12月にタイでワークショップを開催し、併せて、タイ原子力技術研究所（TINT）照射センターへのテクニカルビジットを実施した旨、また、開発された農業用バイオスティミュラントの例、環境修復用の材料、医療及び生物学的応用のためのハイドロゲルに関する各国の研究の進捗および成果が報告された。いくつかの技術は民間企業に移転し、商品化に向けて協力が行われたこと、また、マレーシア、日本、フィリピンの主導のもと、ガイドライン「FNCA バイオ肥料の開発及び微生物の放射線照射による突然変異誘発」のドラフトが作成された点が評価出来ると説明された。

今後の活動計画として、2026 年度もワークショップを開催し、2025 年度と同様の情報交換を継続すること、さらに、研究推進と商品化に向けプロジェクト参加国の協力を強化し、特に、将来的に世界中で利用の増加が見込まれている農業用バイオスティミュラントについては、アジア諸国で定められた規制等について情報交換を行うことが望ましい旨が述べられた。

質疑応答では、商品化されたバイオ肥料について化学肥料との違いや各国の農業政策との関係性、社会的認識向上に向けて積極的な意見交換がされた。

③ **食品産地偽装防止プロジェクト**（豪：Dr. Mazumder） ＊オンライン出席

豪州原子力科学技術機構（ANSTO）が主導する本プロジェクトは、食品産地偽装による汚染食品の摂取による健康リスクや、偽装表示による流通上のリスクに対応すべく、食品産地特定のための技術的プラットフォームの確立を目指している。準備期間を経て 2024 年に発足し、現在第1フェーズにある。

2025 年度の主な成果として、オンラインでワークショップを開催し、プロジェクト参加国に加え、本プロジェクトに高い関心を示しているパプアニューギニアからもオブザーバーとして参加があった旨、また、各プロジェクト参加国において、取り扱う食品のサンプル収集・分析が進んでおり、その統計分析やデータ解釈などについて情報共有を行った旨が報告された。また、特にハンドヘルド X 線蛍光スキャナーを用いたウシエビなどの分析について、産地により分析結果に差が見られ産地の特定に繋がるデータが取得されたこと等、具体的成果が紹介された。さらに、今年度は、IAEA の専門家会議での発表や、大阪・関西万博への参加など、外部の活動への参加を通して FNCA の価値を高められた旨が述べられた。

質疑応答では、エンドユーザーからのフィードバックに基づき分析方法の改良を進めてきたことや、集約されたデータへの加盟国からのアクセス可能性等についての討議があった。

④ **気候変動（森林土壌炭素放出評価）プロジェクト**（永井 PL）＊オンライン出席

陸上生態系で最も炭素を貯蔵する土壌内部の土壌有機炭素（SOC）の特性及び動態の解明は、地球温暖化の長期的な影響の予測に資することが示唆されている。本プロジェクトは、世界で最も広い気候帯をカバーするアジアの森林土壌中の SOC を加速器質量分析装置（AMS）を用いた放射性炭素（14C）測定により評価することで、SOC 動態の解明、土壌 CO2 放出モデル、並びにアジア規模の土壌特性及び CO2 排出モデルに関するデータベース構築を目指しており、2023～2025 年の第１フェーズでは、土壌採取地点の現在及び将来的な CO2 排出量を推定可能なデータベースのプロトタイプ作成を目指しているとのプロジェクトの目的と現在の活動の位置づけの説明があった。

2025 年度の成果として、統一的な形で土壌試料を収集・分析するための実験キットの開発を終え、7 か国から 37 の土壌試料および 9 か国から 500 を超える CO2 試料を入手、処理・分析中であり、暫定的な分析では、目的とするデータベースとモデル開発に有効な解析結果が得られていること、一方、試料輸入の予期せぬ遅れ（国によっては前例のない輸出となり事務手続きに時間を要したこと等が原因）により、3 か国（高緯度・寒冷・乾燥の気候帯であるモンゴルおよびカザフスタン、低緯度・熱帯・湿潤の気候帯であるインドネシア）からの試料が未着であり（今後数か月で受領見込み）、当初の目標を一部達成できていない部分があるとの報告がなされた。

これら未着の試料を含め、すべての土壌・ガスサンプルの分析を計画どおり完成させ、幅広い気候帯（緯度・標高・温度・湿度など）での十分な根拠データに基づく信頼性の高いデータベースとモデルを構築することが、当初の目的に沿うとの観点から、本プロジェクトの第 1 段階を 1 年延長することが要請された。

質疑応答では輸出手続きの改善見込み等の討議がなされ、本プロジェクト第 1 段階の 1 年間延長が承認された。

⑤ **放射線治療プロジェクト**（加藤 PL） ＊オンライン出席

本プロジェクトの目的と現在の位置づけプロジェクトの目的と現在の位置づけとして、がんによる死亡の 70%は低・中所得国で発生しており、がん患者の約半分は放射線治療を必要としている状況の中、アジア地域で罹患率の高いがんの放射線療法と化学療法の最適な治療プロトコルの確立、アジアにおける放

射線治療の質の向上、治療水準向上等を目指し、1993 年より活動を継続中であり、現在 2024～2026 年度の第8フェーズにあるとの説明があった。

2025 年度の成果として、子宮頸がんおよび乳がんの臨床試験で良好な結果が得られ、これらの治療プロトコルは FNCA 各国の標準治療となっていること、医学物理的な品質保証/品質管理（QA/QC）活動の実施、3 次元画像誘導小線源治療（3D-IGBT）のハンズオン・トレーニングなどの教育・研修活動の実施が報告された。また、IAEA/RCA との協力をはじめ、日中韓 3 か国での会合、東南アジアの放射線治療グループでの会合の実施など、国際協力活動についても紹介された。

質疑応答では、医学物理士の育成や技術者との連携等について積極的な討議が交わされた。

⑥ **研究炉利用プロジェクト**（海老原 PL）

研究炉は多くのアジア諸国で使用され、長年にわたり中性子放射化分析や放射性同位元素（RI）製造、半導体製造、原子炉燃料、材料照射、無機および有機物性研究等多目的利用が行われてきた。本プロジェクトは同分野のアジア諸国の間での情報共有、ネットワーク構築及び更なる技術の向上、人材育成等を目指している。また多目的利用の促進、新規研究炉や研究炉の経年対策等の情報交換を行っているとのプロジェクトの目的を再確認した。従来のフェーズから、中性子放射化分析（NAA）に関するプロジェクト、及び研究用原子炉のその他の利用可能性に関するプロジェクト（非 NAA と呼称）の2つのプロジェクトが並行して実施されており、ワークショップ等は合同開催されているとの報告があった。

2025 年度の成果として、9 月にベトナムで開催されたワークショップでは、グループ毎に詳細議論を行い、その後、ベトナム原子力研究所（VINATOM）ダラット原子力研究所（DNRI）において、オープンセミナーとテクニカルビジットが行われた旨が報告された。RI の生産や新規の研究炉について、国別報告の概要が紹介された。

今後の活動計画として、NAA については、環境試料分析の継続や、岩石試料分析の完了、NAA と XRF/ICP-MS の比較を行い、次の NAA プロジェクトにつなげたい旨が述べられた。また、非 NAA については、2016 年に発行された「FNCA 研究・試験炉カタログ（FNCA Research and Test Reactors Catalogue）」を更新し、参加国の研究炉の状況把握を行うこと、また、トピックを統合し、より効果的なワークショップを実施すること等が目標とされた。

質疑応答では、老朽化した研究炉の廃炉もテーマに入れる予定かとの質問に対し、活用を中心に活動していくと表明。上坂委員長からは、世界では新規研究炉が多く建設されつつあるとの世界潮流が紹介された。

⑦ **放射線安全・廃棄物管理プロジェクト**（小佐古 PL） ＊オンライン出席

本プロジェクトは、廃棄物関連施設周辺での環境放射線・放射能に関して参加国の状況を調査、共有することで、参加国の放射線安全、放射性廃棄物管理に関する理解を高め、結果として安全性向上を支援することを目的として活動している。現在 2024～2026 年度の第8フェーズにある。

2025 年度の成果として、7 月にフィリピンで開催されたワークショップでは、各国参加者が「原子力関連施設周辺における環境放射線・放射能」に関する自国の政策、管理体制、課題等について報告を行い、グループディスカッションで意見交換を行った旨と、併せて、各国の優先課題を発表するポスターセッション、「環境放射線および放射能」に関するオープンセミナー（ハイブリッド形式）、およびテクニカルビジットが行われた旨が報告された。テクニカルビジットでは、フィリピン原子力研究所（PNRI）を訪問し、核物質研究部門研究室、訓練・教育・研究用未臨界集合体（SATER）、放射性廃棄物管理施設、放射線影響評価室を視察したことが紹介された。

質疑応答では、福島第一原子力発電所からのALPS処理水の海洋放出に関連するデータの公開について、国民参画、社会的受容性の観点から活発な討議がなされた。また人材育成面では、個々の国の技術レベル、資金等の個別の状況を踏まえ、段階的にプロセスを進める重要性が述べられた。

⑧ **核セキュリティ・保障措置プロジェクト**（堀 PL）

本プロジェクトは、核セキュリティと保障措置の実施に関する経験、知識、情報を共有し、同分野の政策、戦略、枠組みに係る意見交換を行うこと等を目的としている。本プロジェクトの実施により、①核セキュリティと核保障措置の重要性に対する意識向上、②核セキュリティと保障措置に関する情報共有の促進、③核セキュリティと保障措置のための能力構築の促進、④核セキュリティと核保障措置の体制強化、等が期待される。

2025 年度の成果として、9 月にフィリピンで開催されたワークショップでは、参加各国から核セキュリティ及び保障措置をめぐる取組み状況について国別報告が行われ、核セキュリティ及び保障措置のセッションでは、IAEA による補完的なアクセス（CA）に焦点を当てた実践演習や、内部脅威の緩和についてディスカッションが行われた旨が報告された。また、ワークショップと併せて、小型モジュー

ル炉（SMR）における設計段階からの保障措置（Safeguards-by-design: SBD）に関するオープンセミナーが開催された旨も述べられた。今年度の特筆すべき成果として、シンガポールが本プロジェクトに正式参加し、包括的保障措置協定（CSA）に基づく保障措置事務所の設置について議論することを提案したことや、上記ワークショップとオープンセミナーで「SMR における設計段階からの保障措置（SBD）」について、IAEA より 2 名の専門家が講師として発表したことなどが挙げられた。

質疑応答では、サイバーセキュリティ対策、ドローン等の新たな脅威についても取り扱って欲しいとの要望が参加国からも寄せられたほか、SMRでは大型原子力発電所とは違った対策が必要か等の質問が寄せられた。

（4）セッション6： 新規プロジェクトの採択

今回は3件の新規プロジェクトが提案された。各プロジェクトについて、各国コーディネーターによる事前評価が行われた。このセッションでは提案者よりプロジェクトの概要が説明された後、各国コーディネーターによる事前評価結果を共有し、新規プロジェクトについての評価が行われた。

セッション6－1：Introduction 新規プロジェクト関連図書の見直し経緯説明

事務局より、①プロジェクト図書（評価フレームワークと新規プロジェクト提案書）の改訂経緯、②今回応募があった3件の新規プロジェクトおよび事前評価プロセス、③前回の CDM の結論を踏まえ 2026 スタディ・パネルのテーマ設定を行った経緯について説明された。

セッション6－2：新規プロジェクトの提案概要説明、審議（提案国：ベトナム）

－ Enhancing Regional Capacity in Theranostics, Radiopharmaceuticals and Quality of Clinical Nuclear Medicine －

本プロジェクトは、アジア太平洋地域全体でセラノスティクスを確立し、Lu-177-PSMA や Ac-225-PSMA といった先進的なプロトコルを用いて、年間 500 人以上の患者を対象に、精密ながん治療を可能にすることを目的に提案された新規プロジェクト（2026～2028 年度）である。期待されるプロジェクトの成果として、①150 人以上の医療専門家の育成、②ベトナム国への3つのセラノスティクスセンターの設立、③FNCA 加盟国を繋ぐアジア太平洋セラノスティクスコンソーシアムを設立し、臨床プロトコルの標準化と技術移転を促進すること、等を

表明した。また、活動資金については、参加国や国際機関からの共同拠出を想定している旨が提案者より説明された。

本提案に対し、事前評価では、2項目（Effectiveness、Degree of Interest）で、不採択の条件となる低いスコアが付けられた旨が報告された。また、FNCA プロジェクトは加盟国全体の包括的な協力・裨益を目指すべきであるところ、本提案はステークホルダー・裨益対象がいずれもベトナム1国内で完結しており他の FNCA 諸国への言及が限定的であること、協力体制の欠如やリソースの不足が指摘され、本提案は不採択とされた。

セッション6－3：新規プロジェクトの提案概要説明、審議（提案国：ベトナム）

－ Enhancing Quality Assurance of Linear Accelerator (Linac) in Radiotherapy －

本プロジェクトは、FNCA 参加国における先進放射線治療技術に使用されるリニア加速器の品質保証（QA）プログラムの改善を目的に提案された新規プロジェクト（2026～2028 年度）である。期待されるプロジェクトの成果として、①先進技術について、機器の QA や患者ごとの治療計画の QA を含む、包括的な QA プロトコルを確立すること、②研修、監査、高度な QA 手法に焦点を当てた FNCA 共同ワークショップを通じて、医学物理士の能力の強化、③統一された品質保証体制を確立することで、地域における放射線治療サービスにおける患者の安全、治療精度、長期的な持続可能性を向上させること、等が示された。

本提案に対し、事前評価では、2 項目（Impact、Degree of Interest）で、不採択の条件となる低いスコアが付けられた旨が報告された。一方、本提案の代替として、ベトナムが加盟している既存の「IAEA SSDL サービスネットワーク」を VINATOM を通じて利用可能であろう旨の助言があった。また、FNCA においても、放射線治療プロジェクトが、高精度の対外放射線治療（EBRT）の品質保証・品質管理活動を 2026 年に立ち上げる予定である旨も紹介された。以上の活動との重複の観点から、本提案は不採択とされた。

セッション6－4：新規プロジェクトの提案概要説明、審議（提案国：マレーシア）

－ Public Information on Nuclear Energy －

本プロジェクトは、FNCA 加盟国において、標準化されたコミュニケーションツールを開発し、地域協力を強化することで、原子力科学技術に対する国民の理解と信頼を深めることを目的に提案された新規プロジェクト（2026～2028 年度）である。期待されるプロジェクトの成果として、①FNCA のパブリックコミュニケーションに関する標準ガイドラインの策定、②原子力に関するトピックを効果的に

伝えるための国の能力の強化、③国民意識とコミュニケーション能力の向上、④原子力に関するパブリックコミュニケーションにおける着実な地域協力の実現、が示された。

本提案に対し、事前評価では、1 項目（Efficiency）で、不採択の条件となる低いスコアが付けられた旨が報告された。そのため、現状の提案内容での採択は困難である一方、加盟国の関心の高さに応えるため対応が求められるとの見解が示された。提案者より、2026 スタディ・パネルでの議論と知見を踏まえ、プロジェクトの焦点を原子力エネルギーから原子力技術に変更する旨提案があったため、議長の提言により、2 か月を目処に提案書を再提出し、再度コーディネーターによる評価を行うこととなった。

セッション6－5： 新規プロジェクト提案プロセスに関する事務局所見

改訂された評価のフレームワークの、①共同出資、②資金計画、③コーディネーターの役割、に関する記載について、理解の確認のため、事務局より改めて説明を行った。

（5）セッション7： IAEA/RCA の発表

RCA*地域事務所 事務総長のデギ・キム氏より、RCA の概要、プログラム（2025 年の報告および 2026 年以降の予定）、FNCA との協力に関する考え方等について、発表が行われた。

* IAEA の原子力科学技術に関する研究、開発及び訓練のための地域協力協定

（6）セッション8： プロジェクト活動総括と今後の活動

セッション8-1： 令和7年度プロジェクト活動全般評価報告

玉田コーディネーターが 2025 年度の活動の総括を行った。各プロジェクトのワークショップ活動について成功裏に実施されたものと評価した。また FNCA に新規加盟したシンガポールが、放射線治療、研究炉利用、放射線安全・廃棄物管理、核セキュリティ・保障措置の 4 プロジェクトのワークショップに参加したことを報告した。さらに、ワークショップへの積極的な参画を促すため、タイムリーな意見交換、テクニカルビジット及びハンズオントレーニングが可能な対面形式での参加が奨励された。2025 年のワークショップには、開催国のプロジェクトリーダーが副議長として参加することで、加盟国のリーダーシップ強化が図られた旨が報告された。さらに、研究活動を支援するため、各プロジェクトが競争的資金の獲得に努めることが推奨され、放射線育種プロジェクトでは、”East Asia

Science and Innovation Area Joint Research Program (e-Asia)”により資金を確保し、取組が効果的に推進されている旨が紹介された。

セッション8-2： 令和8年度の活動計画

事務局が、2026 年度に開催するワークショップの日程及び開催地について、同時点での予定を共有した。

セッション8-3： FNCA 賞（2025 年度分選出プロセス）

FNCA のプロジェクト活動は、原子力技術、放射線利用、及び原子力安全等の観点から非常に有意義であり、その活動を内外に広く知らせる必要がある。FNCA 賞は、優秀な成果を挙げた研究活動を表彰する目的で 2017 年に設立され、コロナ禍による中断を経て 2024 年 12 月の第 25 回大臣級会合で再開された。

今後の予定として、2026 年度に開催される大臣級会合において、2025 年度の研究活動を対象に表彰を予定している旨、また、その受賞者の選定スケジュールや方法について事務局が説明した。

（7）セッション9：閉会

本会合の決議事項「結論と提言」については、会合内で案が示され、会合後、加盟国のコーディネーター等による確認、修正を経て取りまとめられた。（添付3，4参照）

玉田議長から閉会宣言が述べられ、閉会した。

（参考）

添付1：第 26 回コーディネーター会合　議事次第
添付2：第 26 回コーディネーター会合　参加者リスト
添付3：第 26 回コーディネーター会合 「結論と提言」（英文）
添付4：第 26 回コーディネーター会合 「結論と提言」（和文（仮訳））

アジア原子力協力フォーラム（FNCA）
第 26 回コーディネーター会合(CDM)アジェンダ

開催日時　　：2026年2月6日（金）10:00～
開催形式　　：ハイブリッド形式
会場　　：三田共用会議所　大会議室
主催　　：日本原子力委員会
共催　　：文部科学省
議長　　：FNCA 日本コーディネーター
使用言語　　：英語（日英同時通訳あり）

10:00—10:30 (30 分)
セッション1　開会セッション（議長：日本 CD）
1-1 コーディネーターの交代
1-2 開会
- 開会宣言
- 歓迎挨拶
- 自己紹介
- アジェンダの採択

10:00 ～　10:40　プレス公開

10:30—10:40 (10 分)
セッション 2 第 26 回大臣級会合（MLM）の報告（議長：　日本 CD）

10:40—11:55 (75 分)
セッション 3 既存プロジェクト活動の成果報告と評価　（議長：　マレーシア CD）
- 活動成果報告と自己評価（15 分）
- 成果報告に対する質疑応答（5 分）
- 自己評価に対する質疑応答（5 分）

（セッション 3，4，5 共通）

3-1 放射線利用開発分野（放射線育種プロジェクト）
3-2 放射線利用開発分野（放射線加工・高分子改質プロジェクト）
3-3 放射線利用開発分野（食品産地偽装防止プロジェクト）

11:55—13:00 <昼食> (65 分)

13:00—14:15 (75 分)
セッション 4　既存プロジェクトの活動報告と評価（続）　（議長：　韓国）

4-1　放射線利用開発分野（気候変動（森林土壌炭素放出評価）プロジェクト）
4-2　放射線利用開発分野（放射線治療プロジェクト）
4-3　研究炉利用開発分野（研究炉利用プロジェクト）

14:15—14:30 (15 min) ＜休憩＞

14:30—15:20 (50 分)

セッション 5　既存プロジェクトの活動報告と評価（続）　（議長：　モンゴル CD）

5-1　原子力安全強化分野（放射線安全・放射性廃棄物管理プロジェクト）

5-2　原子力基盤強化分野（核セキュリティ・保障措置プロジェクト）

15:20 —15:35 (15 分)　＜休憩＞

15:35—16:35 (60 分)

セッション 6　新規（継続）プロジェクトの採択　（議長：日本 CD）

6-1　Introduction—新規プロジェクト関連図書の見直し経緯説明（事務局）

6-2　新規プロジェクトの提案概要説明、審議　（ベトナム①）

Enhancing Regional Capacity in Theranostics, Radiopharmaceuticals and Quality of Clinical Nuclear Medicine

- 提案概要説明（ベトナム）
- 事前評価結果報告
- 審議、結論（採択）

（セッション 6-2、6-3 共通）

6-3　新規プロジェクトの提案概要説明、審議（ベトナム②）

Enhancing Quality Assurance of Linear Accelerator (Linac) in Radiotherapy

6-4　新規プロジェクトの提案概要説明、審議（マレーシア）

Public Information on Nuclear Energy

6-5　新規プロジェクト提案プロセスに関する事務局所見

16:35—16:45 (10 分)

セッション　7　IAEA/RCA 活動動向 (RCARO)　　（議長：　バングラデシュ CD）

16:45—17:15 (30 分)

セッション 8　プロジェクト活動総括と今後の活動　（議長：　シンガポール CD）

8-1　令和 7 年度プロジェクト活動全般評価報告

8-2　令和 8 年度の活動計画（含 Workshop）

8-3　FNCA 賞（2025 年度分選出プロセス）

17:15—17:30 (15 min)

セッション 9　閉会セッション　（議長：　日本 CD）

9-1　「結論と提言」の採択

9-2　閉会挨拶

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

FNCA the 26th Coordinators Meeting

List of Participants

No.	Country	Name	Online＊	Title
1	Australia	Ms. Natascha Spark	*	Senior Manager, International Relations Australian Nuclear Science & Technology Organisation (ANSTO) FNCA Coordinator of Australia
2	Australia	Mr. Dan Nicholls	*	Senior Advisor, International Relations Australian Nuclear Science & Technology Organisation (ANSTO)
3	Australia	Dr. Debashish Mazumder	*	Principal Research Scientist Australian Nuclear Science and Technology Organisation (ANSTO) FNCA Project Leader of Australia for Project Combatting Food Fraud using Nuclear Technology
4	Bangladesh	Dr. Md Asad Shariff		Director, International Affairs Division Bangladesh Atomic Energy Commission (BAEC) FNCA Coordinator of Bangladesh
5	Indonesia	Mr. Dimas Irawan		Executive Director for International Nuclear Agency (INUA), National Research and Innovation Agency (BRIN) FNCA Coordinator of Indonesia
6	Indonesia	Ms. Theresia Erni Wijayanti		Team Leader for Exposure of Research and Innovation Utilization, National Research and Innovation Agency (BRIN)
7	Kazakhstan	Dr. Vladimir VITYUK	*	Deputy Director General for Science National Nuclear Center of the Republic of Kazakhstan
8	Korea	Ms. Minyeon KIM	*	Head, Technical Cooperation Division, Global Cooperation Center Korea Nuclear International Cooperation Foundation
9	Korea	Ms. Hongbi DO		Researcher, Korea Nuclear International Cooperation Foundation
10	Korea	Ms. Bomi KIM	*	Researcher, Korea Nuclear International Cooperation Foundation
11	Malaysia	Dr. Muhammad Rawi Bin Mohamed Zin		Director General, Malaysian Nuclear Agency Ministry of Science, Technology and Innovation (MOSTI) FNCA Senior Officer & Coordinator of Malaysia
12	Mongolia	Mr. Chadraabal Mavag		Head of the Nuclear Technology Department, Nuclear Energy Commission (NEC) of Mongolia FNCA Coordinator of Mongolia

FNCA the 26th Coordinators Meeting

List of Participants

No.	Country	Name	Online＊	Title
13	Mongolia	Ms. Tumenjargal Myagmardorj	*	Officer, Foreign Affairs Division Nuclear Energy Commission (NEC) of Mongolia
14	Philippines	Mr. Neil Raymund Diaz Guillermo		Chief Science Research Specialist Philippine Nuclear Research Institute (PNRI) FNCA Senior Officer/Coordinator of the Philippines
15	Singapore	Mr. Ang Kok Kiat		Group Director National Environmental Agency of Singapore FNCA Coordinator of Indonesia
16	Singapore	Mr. Tan Wei Han Gabriel		Executive Scientific Officer National Environmental Agency of Singapore
17	Singapore	Mr. Shaun Peter Baggarley	*	Chief Radiation Physicist National University Cancer Institute Singapore (NCIS)
18	Singapore	Ms. Ho Cang Ning	*	Senior Assistant Director Ministry of Sustainability and the Environment
19	Singapore	Ms. Yong Sze Yean Joyce	*	Snr Asst Dir Ministry of Sustainability and Environment
20	Singapore	Ms. Lu Huijun	*	Senior Assistant Director Communications & Engagement Division Ministry of Trade and Industry
21	Thailand	Dr. Kanokporn Boonsirichai		Deputy Executive Director Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization) FNCA Coordinator of Thailand
22	Thailand	Ms. Panita Ruenbanthoeng		Head of Corporate Communication & PR Section Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
23	Thailand	Ms. Naruemon Neramitmansook	*	Head of International Cooperation Section Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
24	Thailand	Dr. Klitsadee Yubonmhat	*	Nuclear Scientist (Professional Level) Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
25	Thailand	Ms. Chatchawan Mansaithong	*	International Cooperation Officer Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
26	Thailand	Ms. Worada Jarupoonphol	*	International Cooperation Officer Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)

FNCA the 26th Coordinators Meeting

List of Participants

No.	Country	Name	Online＊	Title
27	Vietnam	Dr. Cao Dong Vu	*	Director, Nuclear Research Institute (NRI), Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM) FNCA Coordinator of Vietnam
28	Vietnam	Dr. Pham Kim Long		Deputy Director, Department of Planning and R&D Management, Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
29	Vietnam	Dr. Mai Hong Son	*	Director Nuclear Medicine Center 108 Military Central Hospital
30	Vietnam	Ms. Dang Thi Minh Tam	*	Physicist Hochiminh City Oncology Hospital
31	Vietnam	MSc. PHAN QUOC UY	*	Lead Project Coordinator Hochiminh City Oncology Hospital
32	Vietnam	Ms. Tran Ngoc Hoan	*	Deputy Director, International Cooperation Department, Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
33	Vietnam	Ms. Pham Thanh Huong	*	Official International Cooperation Department Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
34	Vietnam	Ms. Vu Thuan Yen	*	Official International Cooperation Department Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
35	RCA	Mr. Dae Ki KIM	*	Director RCA Regional Office
36	RCA	Mr. Dong Joon LEE	*	Team Leader RCA Regional Office
37	Japan	Dr. TAMADA Masao		FNCA Coordinator Of Japan
38	Japan	Mr. WADA Tomoaki		FNCA Advisor of Japan
39	Japan	Mr. MORIMOTO Koichi		FNCA Advisor of Japan
40	Japan	Dr. HASE Yoshihiro		Senior Principal Researcher, Department of Quantum-Applied Biosciences, Takasaki Institute for Advanced Quantum Science, National Institutes for Quantum Science and Technology (QST) FNCA Project Leader of Japan (Mutation Breeding)

FNCA the 26th Coordinators Meeting

List of Participants

No.	Country	Name	Online＊	Title
41	Japan	Prof. OKAZAKI Shin	*	Professor Department of International Environmental and Agricultural Science Graduate School of Agriculture Tokyo University of Agriculture and Technology FNCA Project Leader of Japan (Radiation Processing & Polymer Modification)
42	Japan	Dr. NAGAI Haruyasu	*	Deputy Director General Nuclear Science and Engineering Center Japan Atomic Energy Agency (JAEA) FNCA Project Leader of Japan (Climate Change (Evaluating the Carbon Emission from Forest Soils))
43	Japan	Prof. KATO Shingo	*	Director of Radiation Oncology Center, Tokorozawa Mihara General Hospital FNCA Project Leader of Japan (Radiation Oncology)
44	Japan	Dr. EBIHARA Mitsuru		Visiting Professor (Professor Emeritus), Tokyo Metropolitan University FNCA Project Leader of Japan (Research Reactor Utilization)
45	Japan	Dr. YAMAGUCHI Atsushi		Assistant PNon-NAAncipal Engineer, Department of Research Reactor and Tandem Accelerator, Nuclear Science Research Institute, Japan Atomic Energy Agency (JAEA) FNCA Project Leader of Japan (Research Reactor Utilization)
46	Japan	Prof. KOSAKO Toshiso	*	Professor Emeritus The University of Tokyo FNCA Project Leader of Japan (Radiation Safety & Radioactive Waste Management)
47	Japan	Dr. HORI Masato		Senior Technical Specialist Integrated Support Center for Nuclear Nonproliferation, Nuclear Security and Human Resource Development (ISCN) Japan Atomic Energy Agency (JAEA) FNCA Project Leader of Japan (Nuclear Security & Safeguards)
48	Japan	Ms. ABE Yukiko		Director for International Nuclear Cooperation, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

FNCA the 26th Coordinators Meeting

List of Participants

No.	Country	Name	Online＊	Title
49	Japan	Dr. IKEJIRI Satoshi		Deputy Director, International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
50	Japan	Mr. AOYAMA Yuichi	*	Unit Chief, International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
51	Japan	Mr. NAKAJIMA Shogo	*	Researcher, International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
52	Japan	Mr. KAJIHARA Yuma	*	Assistant Director, International Nuclear Cooperation Division, Disarmament, Non-Proliferation and Science Department, Ministry of Foreign Affairs of Japan
53	Japan	Mr. ITO Masaki	*	Researcher, International Nuclear Cooperation Division Disarmament, Non-Proliferation and Science Department Ministry of Foreign Affairs of Japan
54	Japan	Dr. UESAKA Mitsuru		Chairman Japan Atomic Energy Commission (JAEC)
55	Japan	Mr. NAOI Yosuke		Commissioner Japan Atomic Energy Commission (JAEC)
56	Japan	Dr. YOSHIHASHI Sachiko		Commissioner Japan Atomic Energy Commission (JAEC)
57	Japan	Dr. TSUNETO Akira		Deputy Director General for Science, Technology and Innovation Policy, Cabinet Office of Japan (CAO)
58	Japan	Dr. IDE Taro		Director for Atomic Energy and International Affairs Bureau of Science, Technology and Innovation Cabinet Office of Japan (CAO)
59	Japan	Mr. SHUZUI Yoshiyuki	*	Deputy-Director Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)

FNCA the 26th Coordinators Meeting

List of Participants

No.	Country	Name	Online＊	Title
60	Japan	Ms. OTAGIRI Kayoko		Chief of International Affairs Section Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
61	Japan	Mr. EGAWA Hirokazu		Technical Counsellor Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
62	Japan	Ms. KUROGI Rie		Senior Researcher Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
63	Japan	Dr. HAGIHARA Rika		Senior Researcher Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
64	Japan	Mr. NAKAMURA Kiyoshi		Senior ResearcherOffice for Atomic Energy PolicySecretariat of the Atomic Energy CommissionCabinet Office of Japan (CAO)

Conclusions and Recommendations of the 26th FNCA Coordinators Meeting

1. Based on the Joint Communiques of the 26th FNCA Ministerial-Level Meeting (MLM) on the new course of FNCA, the Coordinators Meeting (“the meeting"), recognizing the value of the nuclear science and technology field and the radiation utilization as well as related FNCA projects in areas such as nuclear safety, security culture, sustainable agricultural development, food security and safety, environmentally sound industrial development, climate change impact mitigation and protection of natural ecosystems, reaffirming that the main role and objective of FNCA are research and development, knowledge and information sharing and capacity building, for the social and economic well-being of Member Countries, agreed to further develop FNCA’s activities.

2. Review On Ongoing Projects
The meeting discussed and reviewed the following eight ongoing projects reported by the project leaders of FNCA. Main points are summarized as below.

1) Mutation Breeding Project
Relevant institutions in Bangladesh, Mongolia, and Viet Nam have signed memoranda of understanding (MOUs) for research cooperation using QST’s ion irradiation facilities, which are effective for plant breeding. Indonesia completed its procedures this year, and Malaysia is in the process of signing the agreement. An international team from Japan, Indonesia, and Thailand has secured competitive funding through the e-ASIA (East Asia Science and Innovation Area) Joint Research Program and launched a project titled “Accelerating Rice Mutation Breeding to Ensure Food Security under Climate Change Using AI Interpretable by Remote Sensing.” This is expected to further promote the development of new rice varieties. The meeting strongly suggested each country to try to apply new technologies such as genome sequencing to mutation breeding products in the future.

2) Radiation Processing and Polymer Modification for Agricultural, Environmental, and Medical Applications Project
Research has advanced in agriculture, medicine, biology, and environmental fields through the development of biofertilizers and polymer modification. This year, technology for bio-simulants was transferred to private companies, and commercialized. Among these, particularly notable success stories include bio-

fertilizer utilizing microbial mutant breeding produced in China and biological agents developed in Viet Nam for plant disease control. Malaysia, Japan, and the Philippines led the preparation of the draft “Guideline of FNCA Biofertilizer Development and Irradiation Mutagenesis of Microorganisms”. In the next fiscal year, the efforts will continue in the areas of agricultural bio stimulants, environmental remediation, and medical and biological applications.

3) Combating Food Fraud Using Nuclear Technology Project

To reduce food origin fraud in supply chains, analysis results for tiger shrimp samples were shared, following the completion of sample collection using a handheld XRF analyzer for selected priority food items. These efforts support the establishment of a food-origin survey platform and database. Sample analysis will continue at ANSTO, with results shared among participating countries and stored in a central repository. The final workshop in 2026 will include preparation of a multilateral report and outline of academic paper summarizing seafood-related data.

4) Climate Change (Evaluating Carbon Emissions from Forest Soils) Project

Using experimental kits provided by Japan, participating countries began collecting soil samples using a standardized method, which are being shipped to Japan sequentially. As import delays will prevent completion of all required analyses for developing a prototype database and CO_2 emission model, the current phase will be extended by one year. Samples received so far have produced analysis results consistent with those obtained in Japan, contributing effectively to database and model development. Additional data are expected in the coming months, and by the next workshop, the project aims to establish a robust database and model based on climate zone characteristics (latitude, altitude, temperature, humidity, etc.) and sufficiently documented datasets.

5) Radiation Oncology Project

Clinical trials for cervical and breast cancer treatments have produced favorable results and continue to be monitored. These treatment protocols have become the standard of care in FNCA participating countries.

For locally advanced cervical cancer, clinical trials for Protocol 6 will begin in 2026. A preliminary analysis of a clinical trial on radiotherapy for brain metastasis from non-small cell lung cancer (Brain-I) also yielded promising outcomes, and efforts are underway to complete data analysis and publish a corresponding paper. It was

suggested that predictive models may better determine indications for whole-brain irradiation compared to conventional approaches. The project also cooperates with the IAEA/RCA RAS6098 initiative “Standardizing Radiotherapy in Palliative Care” and contributes to the evaluation of the technical document “Choosing Wisely for Palliative Radiotherapy in Asian Countries.”

6) Research Reactor Utilization Project

To enhance neutron activation analysis (NAA) technology, several sources of analytical errors were identified, and recommendations for improving data reliability were compiled. The results of this interlaboratory comparison will be submitted as an academic paper as soon as it is ready. Quantitative analysis of halogen elements in rock samples will be carried out, followed by comparative studies. It was emphasized that new research reactor plans are important, as reactors are essential for stable RI (radioisotope) production used in medical diagnosis and treatment. The project will continue to assess the advantages of research reactors over accelerators and will share each country’s motivation and human resource development strategies related to reactor utilization.

7) Radiation Safety and Radioactive Waste Management Project

Based on the country reports and the results of group discussions on national policies, management systems, and issues related to environmental radiation and radioactivity in the vicinity of nuclear-related facilities, draft reports were prepared covering the contents of the consolidated report, radiation monitoring programs and methods, and regulations and requirements for monitoring. In FY2026, the consolidated report will be further refined with the aim of completion by March 2027.

8) Nuclear Security and Safeguards Project

In the area of nuclear security, participating countries shared efforts to counter insider threats—an increasingly important issue—and recognized risks from digital communications and artificial intelligence (AI) tools as urgent concerns due to their potential misuse. The project will continue deepening understanding of nuclear security culture and countermeasures for emerging threats (AI, cyber security, etc.), while sharing good practices.

Regarding safeguards, comparative analysis with current safeguard technologies and small modular reactors (SMRs) demonstrated improvements in effectiveness and efficiency. Export control mechanisms in member countries were also

reaffirmed as vital for effective implementation of the Additional Protocol (AP), and a collection of good practices will continue to be shared.

3. Discussions on New Projects

With improved procedures endorsed at the 17th MLM for evaluating project proposals, all FNCA coordinators performed ex-ante evaluation of the three projects newly proposed from viewpoints of relevance, effectiveness, efficiency, impact, and sustainability. Main points of such evaluation results were discussed and were summarized as follows.

1) Project Documents Revision and Follow-up from the 25th CDM

The Secretariat explained the background and revision process of Project Documents (Evaluation Framework and New Project Proposal form). This year's actual invitation and evaluation process was explained. The Secretariat also explained how the theme "Public Information/Public Communication including Stakeholder Involvement" was taken up as the topic for SP2026 to follow up the conclusions and recommendations of 25th CDM.

2) New Project Proposal (1) "Enhancing Regional Capacity in Theranostics, Radiopharmaceuticals and Quality of Clinical Nuclear Medicine"

The proposer (Viet Nam) explained outline of the proposed project, followed by summary of ex-ante evaluations. The Chair pointed out that proposal received two low scores (one low score in effectiveness, another low score in degree of interest). Some pointed out that the proposal only concerns Viet Nam, and included limited references to other FNCA countries. The Chair noted the lack of collaboration aspect, recalling that FNCA aims to foster inclusive collaboration and also indicated the lack of resources to cover all radiology activities. It was also noted that the treatment protocols developed through the FNCA Radiation Oncology project should be readily applicable in general hospitals that provide radiation therapy in member countries. As there were no further comments, the Chair concluded that the Theranostics project cannot be adopted.

3) New Project Proposal (2) "Enhancing Quality Assurance of Linear Accelerator (Linac) in Radiotherapy"

The proposer (Viet Nam) explained outline of the proposed project, followed by summary of ex-ante evaluations. The proposal received two low scores (one

low score in impact, another low score in degree of interest). Supplementary observation points by the Secretariat were explained. Summary of IAEA Secondary Standard Dosimetry Laboratories (SSDL) Services Network, which Viet Nam is a member, was explained to compare with the proposal. It is suggested that the Ho Chi Minh Oncology Hospital could utilize the SSDL service through VINATOM. The Chair commented the ongoing Radiation Oncology (RO) project will launch QA/QC activity of high precision external beam radiotherapy (EBRT) in 2026. This activity is expected to support the development of medical physicists in a manner similar to the training in this proposal. The Chair concluded that the Linac project could not be adopted with unanimous agreement of the coordinators.

4) New Project Proposal (3) “Public Information on Nuclear Energy”

The proposer (Malaysia) explained the outline of the proposed project, followed by summary of ex-ante evaluations. The proposal received one low score in efficiency. The Chair also gave supplementary observation by FNCA Secretary and indicated that the importance of high interests among member countries should be addressed despite of one low score. Malaysia suggested by reflecting discussions and findings from SP2026 that the focus of the project can be changed from nuclear energy to nuclear technology. The chair recommended that Malaysia can resubmit revised proposal in about two months. All coordinators will conduct ex-ante evaluation on the revised proposal for its adoption as an FNCA project. The FNCA Secretariat was requested to follow up on this matter.

5) Clarification on Evaluation Framework

In preparation for the meeting, the Secretariat observed that there has been still lack of understanding on the revised evaluation framework. Accordingly, the Secretariat made a presentation on observed points so that member countries could develop more feasible proposals in the future.

4. At the meeting, RCARO reported its overview of the IAEA/RCA.

5. Overall Assessment on Project Activities and Future Plan

1) Comprehensive Evaluation of FNCA Projects in 2025

The Chair presented comprehensive evaluation report of 2025 activities, emphasizing that all workshops were successfully completed. It is also noted that

in-person participation is recommended for timely exchange of opinions and for participation in technical visits and hands-on training.

2) Schedule for Fiscal Year 2026

The Secretariat presented Workshop schedule for fiscal year 2026 as follows.

Session 8-2 FNCA Workshop Schedule for Fiscal Year 2026

Project	Venue	Preliminary Schedule
Mutation Breeding	Philippines	July (TBD)
Radiation Processing & Polymer Modification	Mongolia	August/September
Combating Food Fraud	TBD	TBD
Climate Change (Evaluating the Carbon Emission from Forest Soils)	Japan	TBD
Radiation Oncology	Korea	2-5 November
Research Reactor Utilization	Indonesia	Week of 14 September
Radiation Safety and Radioactive Waste Management	Thailand	17-19 November
Nuclear Security and Safeguards	Japan	TBD

3) FNCA Award Selection Process for Research Team Award for 2025

The Secretariat, by emphasizing encouragement among researchers by the award, proposed to maintain FNCA award and explained this year's FNCA award selection process.

Conclusions and Recommendations of the 26th FNCA Coordinators Meeting
第 26 回 FNCA コーディネーター会合　結論と提言（仮訳）

1. 第 26 回 FNCA 大臣級会合（MLM）の FNCA の新たな方向性に関する共同コミュニケに基づき、コーディネーター会合（以下「会合」）は、原子力科学技術分野の価値や原子力安全、セキュリティ文化、持続可能な農業開発、食のセキュリティと安全、環境に配慮した工業開発、気候変動への影響緩和、自然生態系保護などの分野における放射線利用や関連する FNCA プロジェクトの価値を認め、 FNCA の主要な役割と活動目的は、加盟国の社会的・経済的充実につながる研究開発、知識と情報の共有、能力の構築であることを再確認し、FNCA の活動をさらに発展させることに合意した。

2. 現在進行中のプロジェクトに関するレビュー

会合では、現在進行中の以下の 8 つのプロジェクトについて、FNCA のプロジェクトリーダーにより報告があり、討議とレビューを行った。主なポイントは以下のとおり。

1) 放射線育種プロジェクト

バングラデシュ、モンゴル、ベトナムの関係機関は、植物育種に有効な、QST のイオン照射研究施設を用いた研究協力に関する覚書（MOU）に署名した。インドネシアは今年手続きを完了し、マレーシアは協定の署名手続きを進めている。日本、インドネシア、タイによる国際チームは、e-ASIA（East Asia Science and Innovation Area）共同研究プログラムを通じて競争的資金を獲得し、「リモートセンシングと解釈可能なAIによる気候変動下での食料安全保障の確保に向けたイネ突然変異育種の高速化」と題するプロジェクトを立ち上げた。これにより、イネの新品種開発がさらに促進されることが期待される。会合では、各国に対し、今後、放射線育種による作物にゲノムシーケンシングなどの新技術を適用することを試みるよう、強く提言した。

2) 農業・環境・医療分野における放射線加工・高分子改質プロジェクト

バイオ肥料や高分子改質の開発を通じて、農業、医療、生物学、環境分野における研究が進展した。今年は、バイオスティミュラントの技術が民間企業に移転、商品化された。中でも特に注目すべき成功事例としては、中国で開発された微生物突然変異育種を利用したバイオ肥料や、ベトナムで開発された植物病害防除のための生物農薬が挙げられる。マレーシア、日本、フィリピンの主導により、ガイドライン「FNCAバイオ肥料の開発及び微生物の放射線照射による突然変異誘発」が作成された。来年度は、農業用バイオスティミュラントや、環境修復、医療及び生物学的応用の分野で取り組みを継続していく予定である。

3) 原子力技術を用いた食品産地偽装防止プロジェクト

サプライチェーンにおける食品産地偽装を縮減するため、重点食品品目について、ハンドヘルド蛍光X線（XRF）分析装置を用いた試料収集が行われ、ウシエビの試料分析結果が共有された。これらの取り組みは、食品産地調査のプラットフォームおよびデータベースの構築を支援するものである。試料分析はオーストラリア原子力科学技術機構（ANSTO）で継続され、結果は参加国間で共有し、中央リポジトリに保管される。2026年に開催される最終ワークショップでは、水産物データをまとめた多国間報告書と学術論文の原稿作成等を行う予定。

4) 気候変動（森林土壌からの炭素排出量の評価）プロジェクト

参加国は、日本から提供された実験キットを用いて、標準化された方法で土壌試料の採取を開始し、試料は順次日本に送られている。輸入の遅延により、土壌炭素特性データベースと二酸化炭素放出評価モデルの原型の開発に必要なすべての分析を完了できない状況のため、現在のフェーズを1年延長する予定である。これまでに受領した試料の分析結果は、日本で得られたものと一致しており、データベースとモデルの開発に効果的に寄与している。今後数か月で追加データが届く予定で、次回のワークショップまでに、気候帯特性（緯度、標高、気温、湿度など）や十分な根拠データに基づく信頼性の高いデータベースとモデルを構築することを目指している。

5) 放射線治療プロジェクト

子宮頸がんおよび乳がんの治療に関する臨床試験は良好な結果を示しており、今後も継続的なモニタリングを行う。これらの治療手順（プロトコール）は、FNCA参加国において標準治療となっている。

局所進行子宮頸がんについては、プロトコル6の臨床試験が2026年に開始される。非小細胞肺がんの脳転移における予後予測因子に関する臨床試験（Brain-I）においても有望な結果が得られており、データ解析の完了と関連論文の発表に向けて取組が進められている。予測モデルは、従来のアプローチと比較して、全脳照射の適応をより適切に判断できる可能性があることが示唆された。このプロジェクトは、IAEA/RCA RAS6098イニシアチブ「緩和ケアにおける放射線治療の標準化」にも協力しており、技術文書「アジア諸国における緩和放射線治療の賢明な選択」の評価にも貢献している。

6) 研究用原子炉利用プロジェクト

中性子放射化分析（NAA）技術を強化するため、誤った分析値についていくつかの原因が特定され、データの信頼性向上のための推奨事項がまとめられた。この研究室間相互比較の結果は、準備ができ次第、学術論文として発表する予定である。また、岩石中のハロゲン元素の定量分析を行い、その後比較研究を行う予定である。原子炉は、医療診断および治療に使用される安定的な放射性同位体（

RI）の生産に不可欠であるため、新規研究炉計画の重要性が強調された。このプロジェクトは、加速器に対する研究炉の利点を引き続き評価し、研究炉利用に関する各国の動機及び人材育成戦略について共有していく。

7) 放射線安全・廃棄物管理プロジェクト

原子力関連施設周辺における環境放射線・放射能に関する国家政策や管理システム、その他の課題について、国別報告やグループ討議が行われ、その結果に基づき、統合化報告書の内容、放射線モニタリング計画・方法、モニタリングに関する規制・要件を網羅した報告書案が作成された。2026年度には、 2027年3月までの完成を目指し、統合化報告書のさらなるブラッシュアップを行う。

8) 核セキュリティ・保障措置プロジェクト

参加国は、核セキュリティの分野でますます重要性を増している内部脅威への対策を共有し、デジタル通信や AI ツールの誤用によって起こるそれらのリスクを喫緊の課題として認識した。本プロジェクトは、引き続き、核セキュリティ文化と新たな脅威（AI、サイバーセキュリティなど）への理解を深めるとともに、良好事例を共有していく。

保障措置に関しては、現行の保障措置技術や小型モジュール炉（SMR）との比較分析により、有効性と効率性の向上が示された。加盟国における輸出管理メカニズムは、追加議定書（AP）の効果的な実施に不可欠であることが再確認され、良好事例を引き続き共有していく。

3. 新規プロジェクトに関する議論

第 17 回大臣級会合で承認された、提案プロジェクトの改善版評価手続きに従い、FNCA のコーディネーターは、新たに提出された 3 つのプロジェクトについて、Relevance（関連性）、Effectiveness（有効性）、Efficiency（効率性）、Impact（影響）、Sustainability（持続可能性）の観点から事前評価を実施した。評価結果の主なポイントについて議論が行われ、下記のように取りまとめられた。

1) 第 25 回 CDM からのプロジェクト文書の改訂とフォローアップ

事務局は、プロジェクト文書（評価フレームワークおよび新規プロジェクト提案フォーム）の背景と改訂プロセスについて説明した。また、今回行われた募集と評価プロセスについても説明した。第 25 回 CDM の結論と提言に従い、2026 スタディ・パネルのトピックとして「ステークホルダー参画を含む広報活動／公共コミュニケーション」を採用した経緯についても説明した。

2) 新規プロジェクト提案（1） “Enhancing Regional Capacity in Theranostics, Radiopharmaceuticals and Quality of Clinical Nuclear Medicine”（「セラノスティクス、放射性医薬品、臨床核医学の質の地域能力の強化」）

提案者（ベトナム）より、提案プロジェクトの概要が説明され、続いて事前評価の要旨が説明された。議長は、提案に 2 つの低スコア（Effectiveness で 1 つ、Degree of interest でもう 1 つ）が付けられたことを指摘した。提案はベトナムのみを対象としており、他の FNCA 加盟国への言及が限られていることを指摘する意見もあった。議長は、 FNCA は包括的な協力関係を促進することを目指していることを改めて述べ、協力の視点の欠如を指摘するとともに、すべての放射線医学を網羅するリソースが不足していることも指摘した。また、FNCA の放射線治療プロジェクトを通じて開発された治療プロトコルも、加盟国で放射線治療を提供する総合病院で容易に適用可能であろう旨も指摘された。これ以上のコメントがなかったため、議長は、本プロジェクトを採択できない旨結論付けた。

3) 新規プロジェクト提案（2）”Enhancing Quality Assurance of Linear Accelerator (Linac) in Radiotherapy（「放射線治療における直線加速器の品質保証の強化」）

提案者（ベトナム）より、提案プロジェクトの概要が説明され、続いて事前評価の要旨が説明された。本提案には、2 つの低スコア（Impact で 1 つ、Degree of interest でもう 1 つ）が付けられた。事務局による補足的な所見も説明された。ベトナムが加盟している、IAEA 二次線量標準機関（SSDL）の概要についても、提案との比較のため説明があり、ホーチミン市立腫瘍病院は、ベトナム原子力研究所（VINATOM） を通じて SSDL サービスを利用できるであろうことが提案された。また、議長は、現在進行中の放射線治療(RO)プロジェクトが 2026 年に高精度外部照射放射線治療 (EBRT) の QA/QC 活動を開始する旨も述べた。この活動は、本提案のトレーニングと同様の方法で医学物理士の育成を支援することが期待されている。議長は、全コーディネーターの同意により、本プロジェクトを採択できない旨結論付けた。

4) 新規プロジェクト提案 (3) “Public Information on Nuclear Energy”（「原子力エネルギーに関する公共情報」）

提案者（マレーシア）より、提案プロジェクトの概要が説明され、続いて事前評価の要旨が説明された。本提案には、Efficiency（効率性）において低スコアが付けられた。議長は、FNCA 事務局による補足的な所見を説明し、低スコアが 1 つ付いたものの、加盟国の高い関心は重要で対処すべきであると指摘した。マレーシアは、2026 スタディ・パネルでの議論と指摘事項を踏まえ、プロジェクトの焦点を原子力エネルギーから原子力技術に変更することを提案した。議長は、マレーシアが 2 か月以内を目処に改訂案の再提出を推奨した。全コーディネーターは、FNCA プロジェクトとして改訂案を採択するかどうかについて、事前評価を実施することとし、本件について FNCA 事務局がフォローアップするよう要請した。

5）評価フレームワークに関する説明

会議の準備段階で、事務局は改定版の評価フレームワークに関して、依然理解不足があることを確認したため、加盟国が今後より実現可能な提案を作成できるよう、それらについてプレゼンテーションを行った。

4. 会議において、RCARO は IAEA/ RCA の概要を報告した。

5. プロジェクト活動総括と今後の活動

1) 2025 年における FNCA プロジェクト活動全般評価

議長は、2025 年の活動に関する全般評価報告を行い、すべてのワークショップが成功裏に完了したことを強調した。また、タイムリーな意見交換や、テクニカルビジット及びハンズオントレーニングへの参加のため、対面での参加が推奨される旨も指摘した。

2) 2026 年度のスケジュール

事務局は、2026 年度のワークショップスケジュールを以下のように提示した。

Session 8-2 FNCA Workshop Schedule for Fiscal Year 2026

Project	Venue	Preliminary Schedule
Mutation Breeding	Philippines	July (TBD)
Radiation Processing & Polymer Modification	Mongolia	August/September
Combating Food Fraud	TBD	TBD
Climate Change (Evaluating the Carbon Emission from Forest Soils)	Japan	TBD
Radiation Oncology	Korea	2-5 November
Research Reactor Utilization	Indonesia	Week of 14 September
Radiation Safety and Radioactive Waste Management	Thailand	17-19 November
Nuclear Security and Safeguards	Japan	TBD

3) 2025 年度 FNCA 研究チーム賞の選考プロセス

事務局は、この賞が研究者への励みとなる旨を述べた上で、FNCA 賞の継続を提案し、2025 年度 FNCA 賞の選考プロセスについて説明した。